◆「生活困窮を地域で考えるワークショップ」　【配布シート２】

地域のなか、あるいは関係者のなかで、生活困窮について考えていくための導入のワークショップ。ＳＦＳ方式（「状況把握（Situation)」、「要因分析（Factor)」、「対応策（Solution)」）を用いる。生活困窮者はどんな人たちか、これからどうしたらよいのか、そんな課題を共有する際に効果的である。あがった人たちをすべて支援することになはならないが、支援の対象や支援の方法について構想してみることができる。

用意するもの

一人１５枚のカード　グループごとにマジック、模造紙１枚

すすめ方

３つのテーマについて、１（状況把握）．２（要因分析）．３（対応策）．の順に丁寧にすすめる。１枚に１つのことを記入する。一人ひとりがカードを紹介しながら話し合う。

Step１

最初に１．について３枚程度（３人位)、書き上げてみる。その人がどんな人なのかを記入する。(例　「母親の介護を理由に無職の長男」、「大学を退学後、引きこもっている３０代の人」など）　３人以上いる場合は、カードを加えてよい。

Step２

一人あたり１～３枚程度のカードを作成してみる。

例「母親の介護を理由に無職の長男」

⇒「親の年金に頼った生活費」、「実際には何も介護していない」、「親が亡くなった後の生活」など

ここで出てきたカードについて、類似したカードを集めて整理をする。

Step３

生活困窮の内容を踏まえて、どんな支援ができそうかを考える。今回は実際にできるかどうかよりも、こういう支援があればよいというアイデアでよい。

ポイント

このワークショップでは、まず参加者がふだん地域のなかで困っていそうな人、気になっている人たちを持ち寄ることからはじまる。この段階ではいろいろな人たちがあがってよい。その人たちがどんなことで困っているのかを考えてみる。可能であれば、簡単な類型をしてみることもよい。それに対して、どう対応していけそうかのアイデアを出してみる。

１．地域で困っていそうな人	２．その人たちは何に困っているのか	３．どんな対応ができそうか

＜M.HARADA作成＞